

先週と今週（5月6日から5月14日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

先週および今週のインターバンク市場は、資金調達意欲が引き続き強く、無担保コールO/N加重平均レートは概ね▲0.015%前後と横ばい圏での推移が続いた。レンジは概ね▲0.03～▲0.002%での推移となった。積み最終日となる14日は、着地に向けた調整で調達レートが若干上昇し、▲0.015～▲0.005%のレンジでの出合いが見られていた。ターム物に関しては、ショートターム物で▲0.01%近辺での出合いが散見された。日銀当座預金残高は、約530兆円から始まり、7日の法人税・年金保険料揚げ、12日の源泉税揚げを受け、過後半は520兆円台半ばまで減少した。

●レポ市場

先週および今週のGC T/N物は出合い水準は概ね▲0.100～▲0.080%程度だった。
SC個別銘柄では2Y410～424、5Y140～147、10Y345～362、20Y170～176、30Y59～70、40Y10～13などのカレント近辺の銘柄にビッドが多くみられた。

●短国市場

連休明けの短国市場は、全体として動意に乏しく、2週間にわたって閑散なマーケットとなった。GCレートが上昇していることもあって、3M物は▲0.100%近辺とやや軟調に推移し、一方で6M物・1Y物においては横ばい圏で推移する展開となった。

6日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.112%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1090%、按分落札利回▲0.1050%とやや軟調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.106%出合いと、底堅く推移した。

7日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.106～▲0.103%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1043%、按分落札利回▲0.1011%と無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.105～▲0.103%出合いと、底堅く推移した。

11日に実施された短国買入オペは、前回より2,500億円増額の10,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.003%、按分落札利回較差+0.003%と、無難な結果となった。

14日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.102～▲0.100%の気配が見られる中、平均落札利回▲0.0998%、按分落札利回▲0.0982%と無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.104%出合いと、堅調に推移した。

●CP市場

先週と今週のCP市場は、10日と15日を挟む発行にあたり、輸送機器業態で1,000億円を超える発行が見られるなど、幅広い業態で大型発行が行われた。週間の金額ベースでみると、4,300億円程度の償還に対して、4,700億円程度の発行と若干の発行超となった。市場残高は、発行残高増加の勢いに一服感が見られ、23兆円台後半での推移となった。発行レートは、概ねマイナスとなっていた。オペの按分レートが上昇傾向にあること等から、若干目線を上げる動きも見られたものの、依然としてマイナス圏での推移が続いている。

CP等買入オペは、14日に予定通り4,000億円でオファーされた。発行残高が増加していることもあって、玉の入替ニーズが一定程度あったと見られ、応札額が11,340億円（前回は9,490億円）と前回から増加した。結果も、平均落札レート▲0.011%、按分レート▲0.014%と、前回比（平均▲0.017%・按分▲0.024%）で平均・按分共に上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
5/6（木）	29,331.37	0.085	109.30	△ 0.016	△ 0.089	5,300,700
5/7（金）	29,357.82	0.080	109.13	△ 0.016	△ 0.083	5,277,800
5/10（月）	29,518.34	0.080	108.86	△ 0.016	△ 0.085	5,268,500
5/11（火）	28,608.59	0.070	108.90	△ 0.015	△ 0.091	5,282,400
5/12（水）	28,147.51	0.075	108.85	△ 0.016	△ 0.087	5,260,300
5/13（木）	27,448.01	0.090	109.61	△ 0.014	△ 0.085	5,264,800
5/14（金）	28,084.47	0.080	109.60	△ 0.011	△ 0.085	5,259,300

来週（5月17日から5月21日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
5/17 (月)	4月の企業物価指数(日銀 8:50)	10Y 物価連動 2,000億円 5/18発行			
5/18 (火)	1-3月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50) 3月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)				4月の米住宅着工件数 1-3月期のユーロ圏GDP2次速報
5/19 (水)		TB1Y 35,000億円 5/20発行	5Y 25,000億円 5/20発行	交付税借入 11,000億円 5/31借入	4月の英消費者物価指数 4月のユーロ圏消費者物価指数改定値
5/20 (木)	3月の機械受注統計(内閣府 8:50) 4月の貿易統計(財務省 8:50)				
5/21 (金)	4月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 63,000億円 5/24発行	20Y 12,000億円 5/24発行		4月の米中古住宅販売

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
5/17 (月)	1,200	▲ 4,900	▲ 3,700	国債買入 CP買入 国債補完	▲ 600 200	14,000	13,600	9,900	TB3M発行▲65000償還61900 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲3300 個人向け3・5Y償還700
5/18 (火)	1,000	▲ 2,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	10Y物価連動発行▲2000
5/19 (水)	0	2,000	2,000	CP買入		4,000	4,000	6,000	
5/20 (木)	▲ 1,000	▲ 38,000	▲ 39,000				0	▲ 39,000	5Y発行▲25000 TB1Y発行▲35000償還10200 変動15Y償還7200 エネルギー対策借入▲8000期日8000
5/21 (金)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	交付税借入▲11000償還11000
週 間 合 計	200	▲ 43,900	▲ 43,700	—	▲ 400	18,000	17,600	▲ 26,100	

5/17は日銀予想、5/18以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新積み期を迎え、序盤はレート水準が低下する事も考えられるが、その後は上昇に転じると予想される。基準比率が減少する（4月積み期間20.5%→5月積み期間17.5%）が、新型コロナオベによってマクロ加算残高が増加していることもあり、あまり影響は無いと考えられる。レポ市場は、積み期序盤となり、GC T/Nは▲0.10～▲0.08%程度での取引が予想される。短国市場は、19日に1Y物、21日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。CP市場は、20・25日発行にあたり、発行が膨らむことが期待される。

主要なイベントとしては、国内では18日に1-3月期のGDP1次速報、21日に4月の全国CPI、海外では19日の4月の英国CPI等が挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂く必要があります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入